

参加型社会住宅計画People's Planに関する研究

白石, レイ

<https://hdl.handle.net/2324/2236243>

出版情報 : Kyushu University, 2018, 博士 (工学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)

氏名	白石 レイ		
論文名	参加型社会住宅計画 People's Plan に関する研究		
論文調査委員	主査	九州大学	教授 田上 健一
	副査	九州大学	教授 谷 正和
	副査	九州大学	准教授 鶴飼 哲矢

論文審査の結果の要旨

世界の都市人口が有史以来はじめて50%を超え、特にアジア地域ではメガ都市化が急速に進行している。一方で、世界のスラム人口は約10億人、アジア地域約6億人であり、その大部分は開発途上国の都市に居住している。インフォーマル居住の改善は開発途上国の基幹的都市問題であり、喫緊のグローバル課題ともいえる。

本研究の主たる目的は、都市化が進行する開発途上国を対象とし、インフォーマル居住者自らが住宅計画に主体的に参加することを基本とした挑戦的政策である「参加型住宅計画 People's Plan (以下 PP)」の計画手法を、建築計画学の立場から包括的に検証し、インフォーマル居住者を都市へ包摂するための社会住宅計画手法について論考したものである。

第1章では、研究の背景、目的、方法、既往研究、論文の構成について述べている。インフォーマル居住家族数が多いフィリピン共和国で近年実施されたPPを研究対象とすることの妥当性等から、本研究の立脚点について述べている。

第2章では、広範な研究蓄積を有する建築計画学分野において、住宅計画、社会住宅、参加型計画、海外住宅等領域での本研究の意義と独自性について言及している。

第3章では、世界のインフォーマル居住問題の現状を確認し、先進事例のレビューを通して、参加型社会住宅計画手法の課題を明らかにしている。

第4章では、研究対象地フィリピンにおける「現状」「社会住宅政策の歴史と経緯」、およびPP開始背景の詳細を公開資料や政府機関者へのインタビューにより明らかにしている。

第5章では、PP公式ガイドラインを「制度」「組織」「プロセス」「空間」という項目で詳細に分析し、構成的特徴と作成経緯、また「目標」とそこから創出される「価値」について明らかにしている。分析結果から導かれた「コミュニティガバナンスによる持続的都市居住」や、インフォーマル居住者へ自立的な計画立案を求めるといった「参加を超えた責任の委託」等のPPが有する本質的課題は、本論の核心的議論となっている。

第6章では、PPの実践事例について、制度と組織に対する評価を行っている。社会関係資本としての住民組織の特徴とその主体化の実現過程、政府・自治体・NGOの各レベルでのコミュニティ・オーガナイズサポートの実情と課題等からPPの持続性と実効性を評価している。

第7章では、PPの実践事例について、プロセスと空間に対する評価を行っている。それぞれの住民組織が辿ったプロセスの特徴は、「長期的活動」でありながらも「居住のビジョン」に乏しく、「住宅デザイン」や「居住後マネジメント」活動の実践率が低く、「テクニカル・サポート」が不足していること等を明らかにした。その上で選択行為の実現という段階までの達成を評価し、創造的な活動へと深化することの重要性について述べている。

第8章は、研究の総括と今後の課題について述べている。既存コミュニティが住民組織を形成し、土地選定から住宅デザインまで行うPPは、包括的な参加により量的な実践を試みる新たな社会住宅計画手法であることを多面的かつ実証的に評価した。また、その基盤となった与件、すなわちNGO活動を醸成する文化的背景、高度民主主義という社会的背景、都市防災計画の一環としての社会住宅計画という政策的背景を踏まえながら、最脆弱社会層であるインフォーマル居住家族を、都市空間へ包摂するためのひとつの社会住宅計画手法として実践するための課題を抽

出している。

本研究で得られた参加型社会住宅計画に関する知見は、開発途上国における計画目標や多様な建築設計手法の創出に繋がるとともに、建築計画学の発展に大きく寄与すると考えられる。

よって本論文は博士（工学）の学位論文として合格と認められる。